エピソード37
登校をしぶる子どもの保護者から相談がありました。

なみちゃん
　小学校教師として25年以上の経験があります。
エデュサポネットのファシリテータです。

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.

小学校で、担任をしていたときの
経験をお聞きします。

私が、高学年で担任したさくらさんは、
5年生の終わりくらいから学校への登校渋り
が始まり、私は気になっていました。

さくらさんはお父さんと二人暮らしでした。
私は「困ったことがあったら、いつでも
話してね」と日頃から言っていました。

さくらさんに、どんなことが起きましたか。

6年生になって、お父さんから私に「さくらが昼夜逆転している、学校に行きたがらない。」と相談がありました。

お父さんは高齢で病気もありました。私はできるだけ連絡を取り合い、できることはしていきたい、とお父さんに伝えました。

その後、どんなことがありましたか。

ある日、お父さんが学校に来て「さくら
からこんなに長いメールが来た。」
とメールを見せてくれました。

メールには、学校に行きたくない理由が
二つ書いてありました。

メールの詳しい内容を教えてください。

一つ目は学校のことで、友だちが転校してしまったことと、先生が表面的にしか心配してくれない、と書いてありました。

もう一つは家族の問題で、とても大きな問題なので、簡単には解決できそうもないことが書いてありました。

そのメールを読んで、
先生はどうしたのですか。

お父さん、管理職、学年の先生、養護教諭、特別支援コーディネーター、担任で話し合いを持ち、気持ちが下がっているさくらさんに、何ができるかを話し合いました。

話し合いを持ったことで、学校と
保護者が連携できたと思いました。

話し合いが終わってから、
どんなことがありましたか。

お父さんが帰りがけに「さくらが私の携帯を使って、返してくれない。私にかかってきた電話も切ってしまう。」と言いました。

私は「お父さんが困っている気持ちを、そのまま素直に、さくらさんに伝えてはどうですか。」と話しました。

お父さんはどんな反応でしたか。

お父さんは、自分の気持ちを素直に伝えることは考えていなかったようでした。目を見開き、私の話を真剣に聞いてくれました。

お父さんの姿を見て、表面的にしか心配していないと言われた私も、さくらさんに素直に気持ちを伝えたいと思いました。

話し合いが終わった後、参加した
先生方から、何か話がありましたか。

コーディネーターの先生が「お父さんが
メールを見せてくれたのも、電話のことを
相談してくれたのも、先生がコンタクトを
切らさずに取っていたので、信頼していた
んだと思うよ。」と言ってくれました。

私は、さくらさんやお父さんの気持ちを
大切にして、支援していこうと思いました。

なみちゃんの一言

- 保護者との連絡を継続していくことは、信頼につながるのですね。いざという時、頼りにしてもらえる教師になりたいものです。
- 子どもは、物事の本質を、子どもなりに見抜いているものです。
- 理解し合うためには、子どもや保護者との対話が大切なのですね。

お・し・ま・い

イラスト　尾上樹里
（北海道教育大学 大学院生）

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.